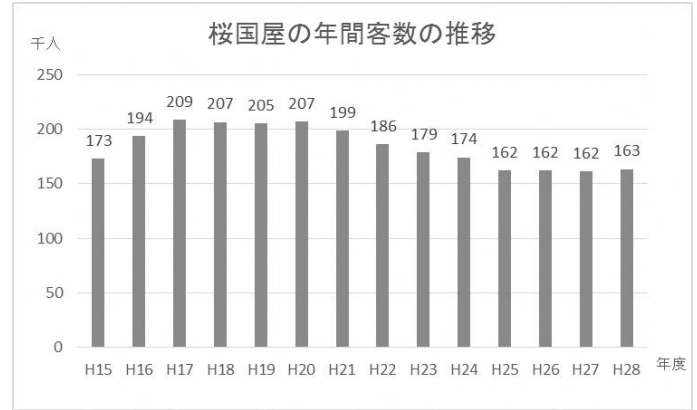
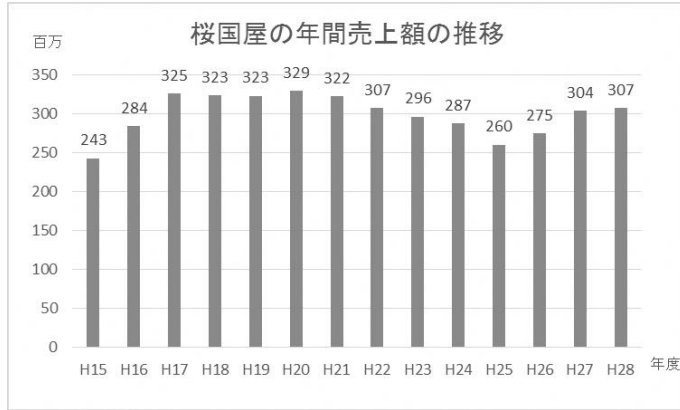


北本市農業ふれあいセンターを取り巻く環境・課題の整理

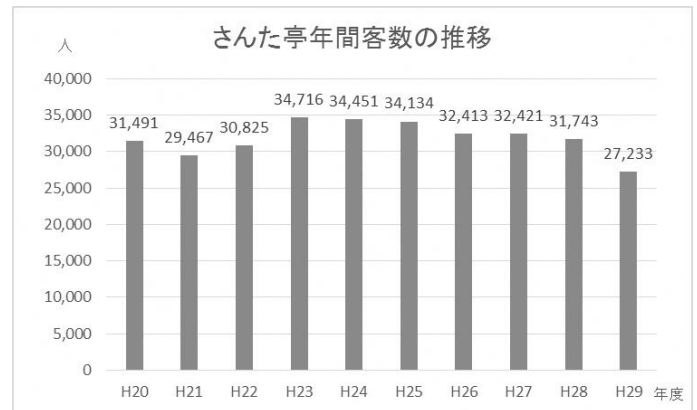
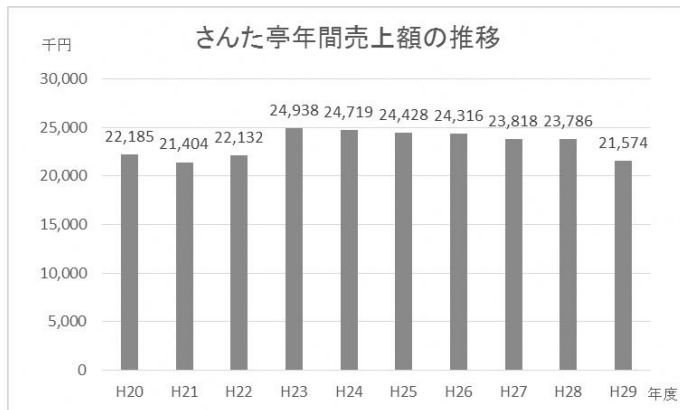
■農業ふれあいセンターの売上・客数の推移

- ・桜国屋の売上は、オープン後すぐに増加し、一時は年間3億円を超えたところを徐々に減少していたが、直近3年間は増加しており、年間3億円を超える売上となっている。さんた亭の売上は、減少傾向である。
- ・リニューアルを機会に、桜国屋は、一層の増加を目指し、さんた亭は減少から増加に転じさせる必要がある。

○桜国屋



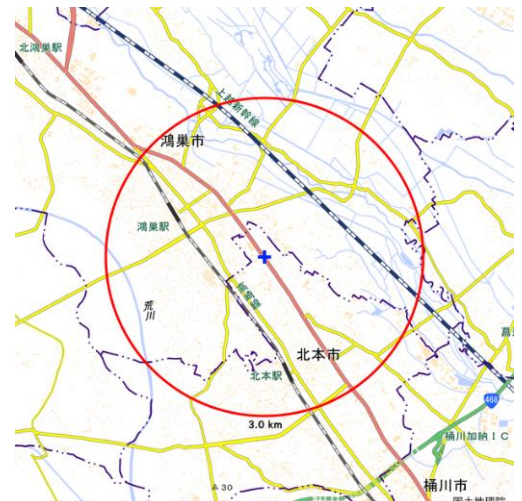
○さんた亭



■周辺の人口動態

本施設から3km圏内の人口は約86千人、そのうち20歳以上の人口は約72千人であり、また、市内の人口は66千人以上である。一定の人口規模があるため、より近隣住民に利用いただけるようリニューアル、運営を進めていく必要がある。

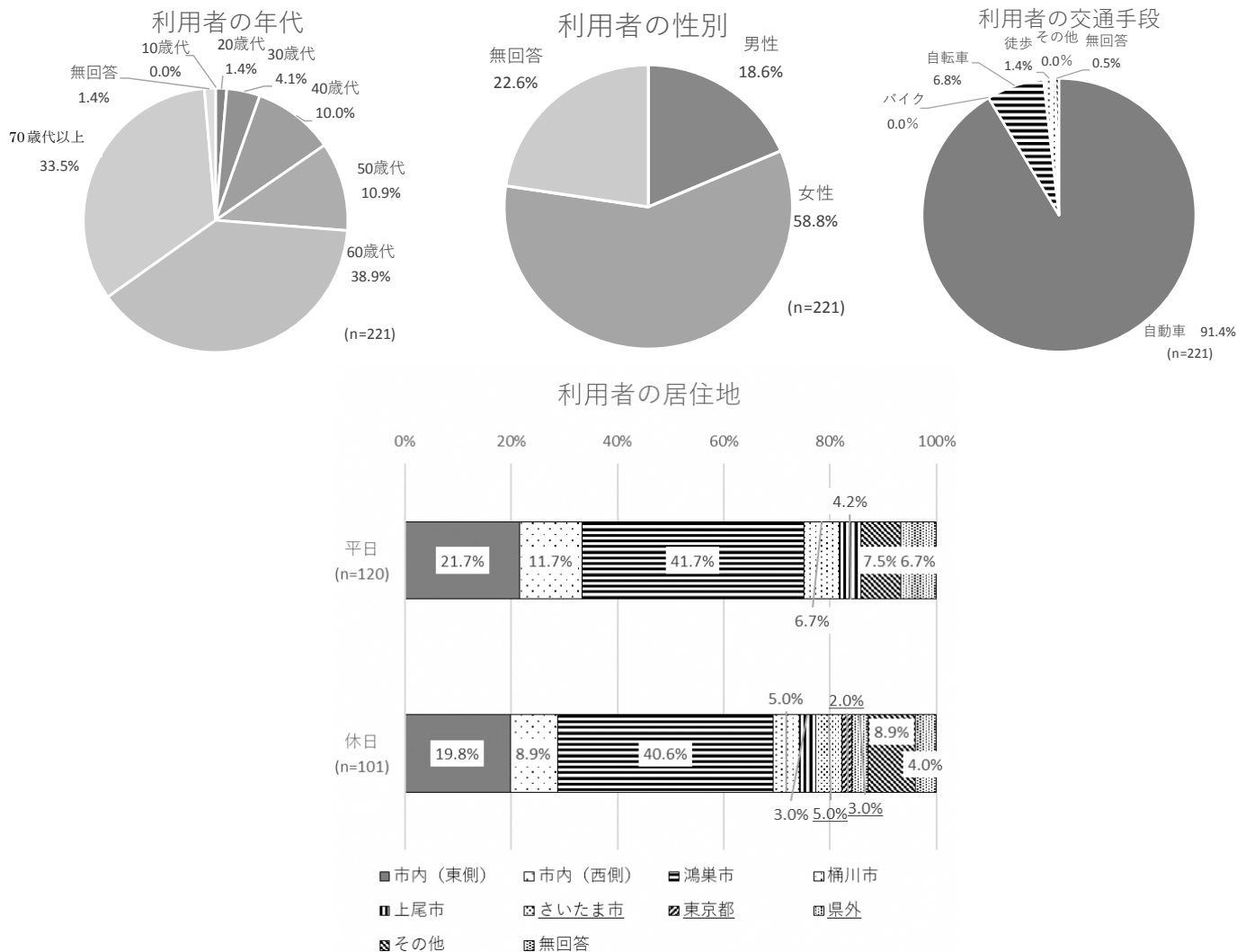
	施設から3km圏内		北本市全域		埼玉県全域
	人口	割合	人口	割合	割合
人口総数	86,325	-	67,409	-	-
20歳以上	71,966	83.4%	56,517	83.8%	81.8%
0～9歳	6,342	7.3%	4,668	6.9%	8.1%
10歳代	7,931	9.2%	6,143	9.1%	9.3%
20歳代	8,614	10.0%	6,451	9.6%	10.3%
30歳代	9,066	10.5%	6,711	10.0%	11.0%
40歳代	12,738	14.8%	10,206	15.1%	15.7%
50歳代	11,517	13.3%	8,475	12.6%	12.0%
60歳代	13,188	15.3%	10,799	16.0%	14.1%
70歳以上	15,881	18.4%	13,112	19.5%	16.9%



※平成27年国勢調査より

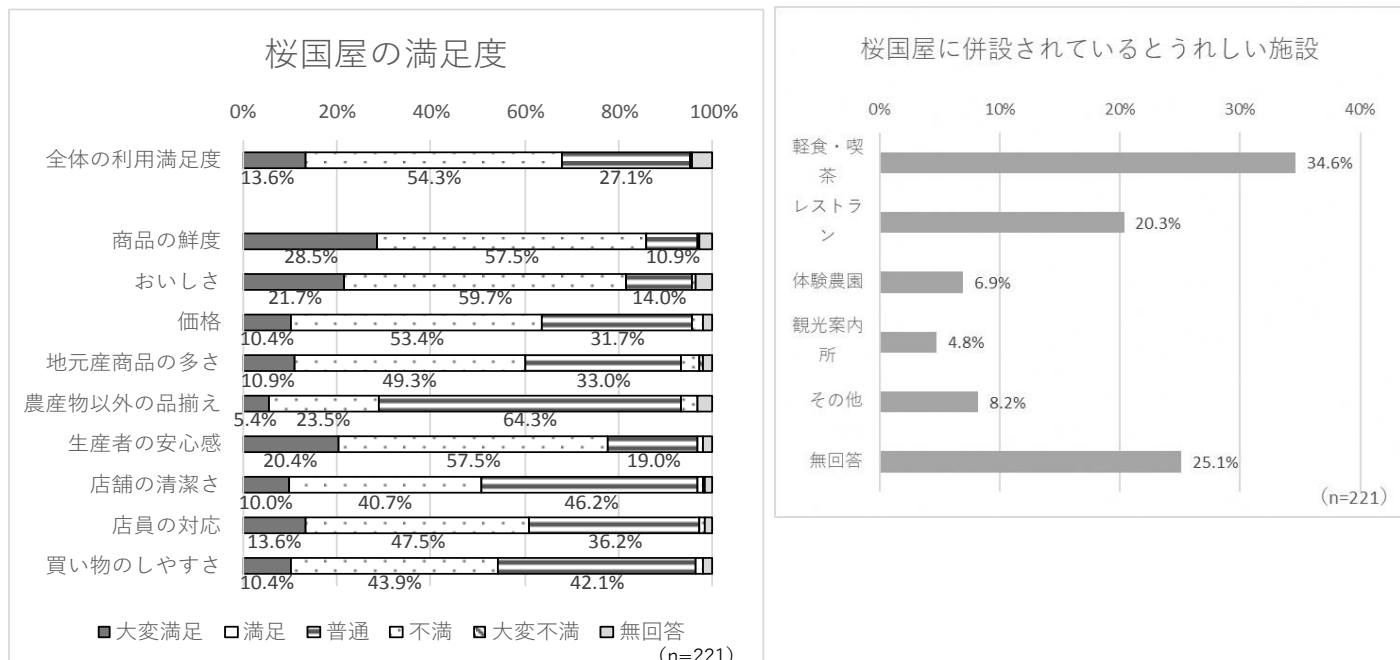
■桜国屋の利用者の傾向（昨年度利用者アンケート調査より）

利用者の多くは、市民及び鴻巣市民(7割程度)である。平日は近隣住民の利用が多いが、休日は市外や県外、都内からも利用がある。60歳、70歳代以上の利用者が7割程度を占める。近隣の20歳代～50歳代の住民への集客、休日を中心に広域への集客を図っていく必要がある。



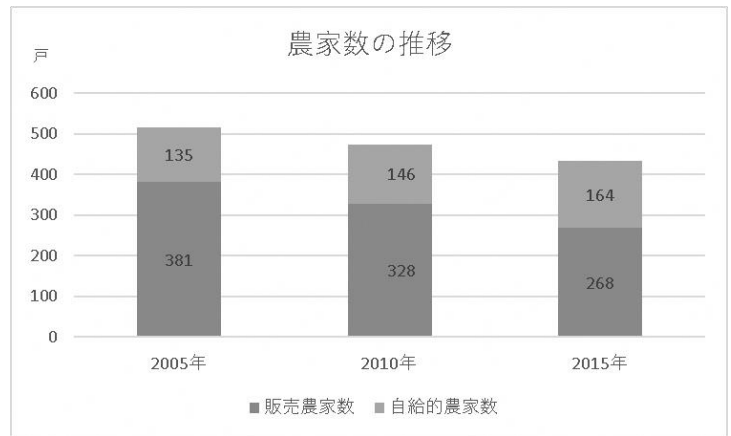
■桜国屋に対する満足度（昨年度利用者アンケート調査より）

全体の満足度は高い。新たに追加する機能としては軽食・喫茶やレストランなど、飲食機能を望む人が多く、リニューアルに向けて検討する。

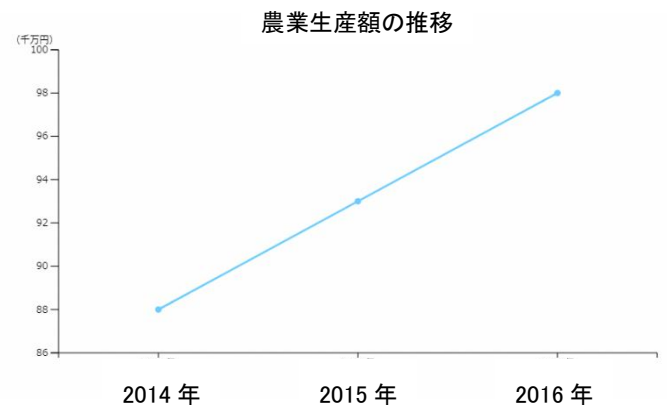
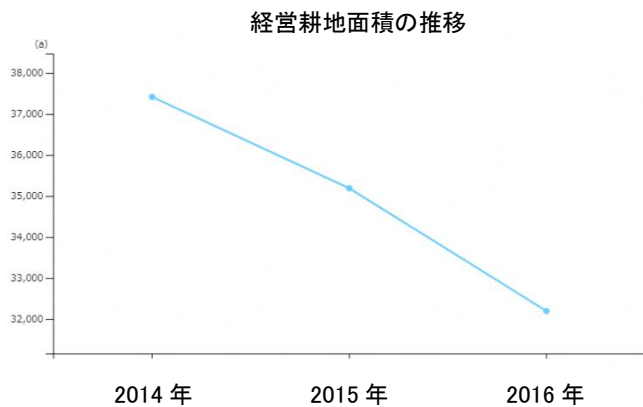


■北本市の農業の現状

2005 年以降、市内の農家数は減少傾向が続いているが、後継者のいる農家も多く、二代目世代による活発な取り組みが注目されている。



市内の経営耕地面積は 2014 年以降減少を続けている。一方で農業生産額は増加しており、都市農業として消費者との交流や農産物を活用した商品の開発などを、継続して進めていく必要がある。



■北本市の主な農産物

○トマト

北本市では古くからトマトが特産品とされ、現在では、温室による促成栽培を行うなどして安心・安全なおいしいトマトを提供している。また、トマトを使った和菓子や食料品などの特産品も開発されている。

○そば

遊休農地の解消と転作拡大を図るため、平成 13 年に「北本そば生産組合」が設立され、市の転作奨励作物である「そば」の栽培、販売を行っている。

■市内農業者の主な取り組み

- 市内全小学校での収穫体験の協力
- 伝統野菜の栽培、加工
- 6次化商品の開発、販売 等



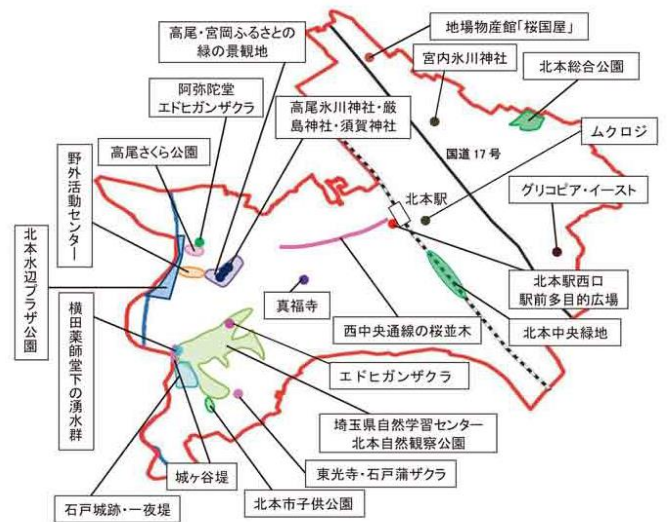
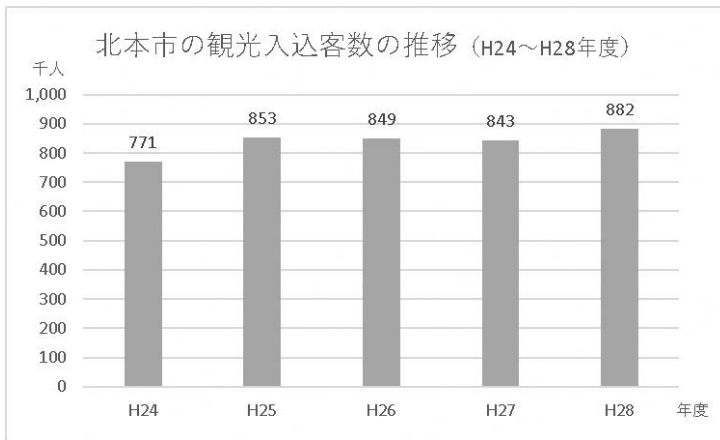
○北本イケメン野菜

北本市農業青年会議所のメンバーが生産した北本産野菜と果物のうち、「土よし、味よし、生産者よし」を三カ条に作られた農産物を『北本イケメン野菜』として PR している。市内レストランと連携したオリジナルメニューも開発している。



■観光の概況

観光入込客数は徐々に増加している。「北本市観光基本計画(平成26年度策定)」において、観光客100万人の都市を目指していることもあり、様々な地域資源を活かしながら、観光振興を進めていく。



○主な観光資源

石戸蒲ザクラ、北本トマトカレー、グリコピア・イースト、北本水辺プラザ公園、北本市子供公園 等